

# 石巻市立吉浜小学校

2014年 12月 19日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

## 【文献】

(1) 『子どもの命は守られたのか? 被災見聞録』 編著(2011)かもがわ出版

## 【場所】

追波湾から約140m、北上川の河口に位置している。

住所:宮城県石巻市北上町十三浜東田66

※現在は閉校し、別の学校と統合された。



赤い範囲:石巻市

石巻市

緑の範囲:吉浜小学校

## 【東日本大震災による被害】

津波により校舎3階まで浸水。

※現在、校舎は取り壊されている。

## 【震災当日の様子】

地震が起こった時、低学年と6年生は帰宅しており、3・4年生と一部の5年生が学校に残っていた。その後、3・4年生は親に引き渡し5年生5名と10名の教員が屋上に避難して、何とか難を逃れている。家に帰った児童の中で、学校の隣にある北上総合支所が避難所になっていたことで、そこに家族と避難していた7名が亡くなった。またその役場に行っていた1名の教員も亡くなっている。この総合支所には職員と避難民57名がいたとされているが、そのうち生存者は3人(うち1人は小学生)であった。(1)

## 【調査して言えること】

学校の標高は約1.2mで、海から約140m、一級河川の北上川の河口にあり、地震の際に津波を警戒した避難の必要な学校である。学校の裏は山になっているが、登るのは難しそうな斜面であった。また、学校から北西に270mほど離れた場所の山の中腹に五十鈴神社があり、標高40mほどの高さに登ることができる。また、北上川を挟んで反対側には石巻市立大川小学校がある。

一部の児童が避難した北上総合支所は学校のすぐ隣にあった。建物は2階までしかなく、3階建てである校舎よりも低い建物で、津波の避難には適していない。また、学校の校舎も3階天井まで津波が達しており、屋上避難では場合によっては危なかったと考えられる。

学校の近くに神社があり、学校外への避難が可能な学校である。



校舎のあった場所

西から見た学校の跡地(2014/3/18撮影)

※土が盛られているあたりに校舎があった。



校舎跡

裏山

震災の慰霊碑

閉校の記念碑

学校の裏山の様子(2014/3/18撮影)

※急な斜面で山道の整備もされていないため、登るのは難しい。



学校の近くにある神社(2014/3/18撮影)